



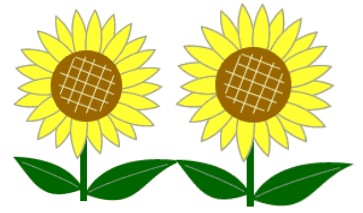
ボランティア支援室
学生スタッフ
Volunch

ボラ室だより

2017/03



はじめに・・・



こんにちは！

横浜市立大学ボランティア支援室学生スタッフVolunchです。

この冊子を手にとって頂きありがとうございます！

この冊子はボラ室学生スタッフVolunchが作成したボランティア支援室やボラ室学生スタッフVolunchの活動を紹介する広報誌です。2016年度は既に2回の広報誌を発行しましたが、今回は1年間の活動の振り返りとともに、特別コラムやボランティア体験記も含め、盛りだくさんな内容になっています。この広報誌を読んで、少しでもボランティアに興味を持っていただければ幸いです。

ボランティアに関心のある方は、是非ボランティア支援室をご利用ください。

目次

P2 はじめに

P3 ボラ室とは?? & ボラ室学生スタッフ Volunchとは??

P4～6 2016年度 学生スタッフ活動の記録

P7 2017年 ボラ室学生スタッフ Volunch 活動計画

P8～9 3月広報誌 特別コラム **被災地ボランティア・防災勉強会から学んだこと**

P10～13 ボランティア体験記

P14 フォトギャラリーコーナー



ボラ室とは??

ボランティア支援室では、ボランティアをしたい学生さんと、ボランティアを必要としている団体などをつなぐお手伝いをしています。「ボランティアをやりたい!」と思ったら、まずはボランティア支援室を訪れてみてください! スタッフが皆さんの希望を聞きながら相談にのります。ボランティア支援室では、掲示板やファイルを見ながら自分でボランティア活動を探すこともできます。ボランティア登録をすると、マイページが発行され、web上でボランティアの募集情報や活動記録を閲覧することもできますよ! ボランティア募集情報は、YCUポータルやSNS (FacebookやTwitter) でも発信しています。是非SNSも覗いてみてくださいね! シーガル2階ボランティア支援室で皆さんの来室をお待ちしています!!



ボラ室 学生スタッフ Volunchとは?

私たちボラ室 学生スタッフ Volunchは部活でもサークルでもない有志団体であり、学生とボランティアをつなぐ目的のもと活動しています。Volunch (ボランチ) には、サッカーのポジションのVolante (ボランチ) と branch (枝) の意味を含んでいます。サッカーのボランチのように私たち自らも積極的にボランティアに参加するとともに、皆さんと一緒にボランティアを盛り上げていきたい。そして私たちは学生として、枝のようにいくらでも自分のことを伸ばすことができる。ボランティアを通して自分を成長させたい。Volunchにはこうした願いがこめられています。

学生スタッフ Volunchの目標は

- ①ボランティアの楽しさを発信し、ボランティアと市大生をつなげる
- ②ボランティアに参加することで自分の経験値をあげる

この目標を達成するために、ボランティアツアーの企画、ボラ室でのオススメボランティアの紹介、他大学との交流、広報誌の発行、ボランティア体験記の作成などに取り組んでいます。

ボランティアに関して何か聞きたいことや、Volunchの活動について知りたいことがあればVolunchメンバーに是非尋ねてください!

Volunchは新たなメンバーを年間を通して募集しています! 2017年度のVolunchの詳しい活動計画はP7をご覧ください。



2016年度 学生スタッフ活動の記録

2016年度学生スタッフは4つのプロジェクトを立ち上げ、それぞれの視点から、学生が地域のニーズや社会問題・学内のニーズに興味を持ち、ボランティア意識を高め、ボランティアを通して社会に貢献できる仕組み、機会を作っていました。各プロジェクトの活動を紹介したいと思います。

ワークショップ プロジェクト

プロジェクトリーダー
2年 岡 宙哉

2016年 12月20日開催 第1回ワークショップ
テーマ:WFPボランティアについて

WFPとは「世界食糧計画」のことで国連の一機関のこと。
WFPの下部機関である国連WFP協会の職員の方を招いて行った9月5日の学生スタッフ勉強会を元にこのワークショップを開催しました。世界の食糧危機について理解を深め、私たちでもできるボランティアを考えました。



2016年 2月14日開催 第2回ワークショップ
テーマ:被災地ボランティア・防災について

減災マップを使って、大学の周りで災害が起きたら、キャンパスのどこが危ない、どうした行動をとるべきかを考えました。災害を自分事として考えたうえで、被災地支援ボランティアに行くときの心構えを講師の方からうかがうことができました。詳しくはP8~9を参照ください。

学外貢献 プロジェクト

プロジェクトリーダー
2年 和田 朋也

社協・関東学院大学三者連携「ボランティア活動入門講座第1回」でのボランティア体験談発で、ボラ室学生スタッフとしてボランティア体験談を発表しました。

またボランティア活動の実践として、8月27日 金沢まつり花火大会募金活動に市大生のボランティアも募り、参加しました。



● 浜大祭 プロジェクト

プロジェクトリーダー
2年 小平 ゆりか



10月1日 工作教室・防災スタンプラリー 開催@浜大祭

2015年度と同様に、浜大祭で地域の子どもたちに参加してもらえるプログラムの運営にあたりました。2016年度は、体育館で工作教室・防災スタンプラリーを開催！2日間で80人ほどの子どもが参加し、2人の学生ボランティアと一緒に楽しく活動することが出来ました。

工作教室では、紙とライトでハロウィンのかぼちゃのランタンを作り、防災スタンプラリーでは、3つの‘防災ミッション’に挑戦してもらいました。

子どもたちはランタンの出来上がりをとっても喜んでくれました。また防災スタンプラリーも楽しく参加してくれました。子どもたちが少しでも防災について考えるきっかけになっていたら良いです。

● 学内ニーズ プロジェクト

プロジェクトリーダー
3年 小田島 薫



10月13日 ピアサポート勉強会 開催

今回の勉強会の目的は、「ピアサポートについて知る」でした。そのためピアサポートの概要や他大学の実施状況等をテーマに紹介しました。参加してくれた学生さんからは、「ピアサポートについて知識がなかったので、勉強になった」といった声が上がリ、勉強会を開催して本当によかったと思いました。

私自身、これまで障害のある方へのサポートについて考えたり、周りの人と話し合う機会がなかったもので、改めて考え直すきっかけにもなりました。同時に、「障害」とひと口に言ってもその種類は様々であり、そのように考えると、自分の身近なところにも困っている人はたくさんいるのではないかということにも気づくことができました。

今回は、バリアフリー支援室の方や、バリアフリーサポート学生の方にもお話ししていただいたことで、障害に対する見方や、障害を持つ方への接し方なども学ぶことができました。

● その他

がんばらばい熊本!!
from 神楽川



2016年度は、2016年4月に発生した熊本地震を受けて、ボラ室学生スタッフ発案で募金活動を行いました。4月から5月にかけて学生ボランティアと募金活動を行い、総額108200円募ることが出来ました。この募金は、甚大な被害を受けた阿蘇キャンパスをもつ東海大学に寄付しました。ご協力ありがとうございました。

● 広報誌

広報誌作成担当

1年 北垣 2年 池田 2年 和田

ボラ室学生スタッフは2016年度に本誌を合わせて計3回広報誌「ボラ室だより」を発行しました。学生スタッフの活動を報告するとともに、学生の皆さんにボランティアを気軽に身近なものとして感じていただけるよう編集に取り組んできました。今後とも「ボラ室だより」をよろしくお願いします！！



ボラ室学生スタッフ経験談

1年 北垣 璃乃

私は現在、学生スタッフの活動とは別に、就労で来日した外国人を支援する団体のボランティア活動に参加していますが、このボランティア活動において人手が足りないということで、学生スタッフとして、市大生に呼びかけるためのポスターなどを作成しました。未だボランティアの人数は足りないものの、ある学生が参加する予定があると聞いた時は私自身が、その学生のボランティアへのきっかけをつくること出来たのだと、とても嬉しく思いました。

またこの1年は、先輩方に色々教えていただきながら、広報誌の作成などに従事し文章力や構成など学ぶ点が多くありました。そして年末年始の学生スタッフミーティングでは、情報の共有やボランティア支援室のあり方などをスタッフ全員で考える良い機会があり、改めて今後の活動について考え、私自身の1年の活動を振り返ることが出来ました。

学生スタッフが行ってきたイベントの中で特に印象に残っているのは、学内プロジェクトのピアサポート勉強会と浜大祭プロジェクトの工作教室&防災スタンプラリーでした。ピアサポート勉強会では、普段考えないような分野を詳しく聞いたのでとても勉強になり、視野が広がったように感じます。工作教室&防災スタンプラリーではイベントに参加してくれた子どもたちや保護者の方々と交流できたので充実した日を過ごせました。日常生活において小さな子どもと話す機会がなかったため、どのように接したらよいのかなど学べたのがよかったです。

2017年度は現在参加しているボランティアだけでなく、多種多様のボランティアに参加していきたいと思います。また学生スタッフとして先輩方を見習いながら自分自身のスキルアップを図りたいと思います。ボラ室学生スタッフは、様々な経験を通して、学ぶことが多いので、この機会をこれからも活かしていきたいと思います。

2017年 ボラ室学生スタッフ Volunch メンバー募集!!!

ボラ室 学生スタッフ Volunchは2017年も市大生とボランティアをつなげるため、Volunchの活動を通して自分自身のスキルアップのために様々な取り組みを行っていきます!!ここで2017年のVolunchの活動を紹介します!!

①ボランティアツアーの企画

みんなで、楽しくボランティアに参加できる、ボランティアツアーの企画を年間を通して行っていきます♪毎月学びのあるボランティアを1つ選択し、市大生の学生ボランティアを募って、一緒にボランティアに参加します!学生ボランティア募集のポスターの作成、SNSで広報を行っていきます。

②ボランティアレポートの作成

ボランティアツアーや個人的に参加したボランティアの経験をレポートしていきます!ボランティア活動を振り返ることはとても大切な機会です。あなたが感じたボランティアの楽しさや、学んだことを、いろんな人に発信していきましょう!!

③夏休みキャンプボランティア参加

夏休みには様々なところで子どもたちのキャンプが催されます。そのボランティアにVolunchとして参加!!子どもたちとのふれ合いの中で楽しいボランティアをして、夏の思い出を一緒に作りませんか♪♪

④他大学のボラ室学生スタッフとの交流

他大学のボランティア支援室ではとてもユニークな活動をしているところがあります。そうした学生スタッフとの意見交換、交流の中で、Volunchのスキルアップに励んでいきます!!

この他にも広報誌の作成、掲示板の作成やボラ室でのオススメボランティア紹介などを行っていきます!!毎月月末の月1ミーティングではみんなの考えを共有したり、新歓パーティー・クリスマスパーティー・初詣など、年間を通してイベントを行って、Volunchみんなで楽しくボランティア支援室、ボランティア活動を盛り上げていきます!!

ボランティアをするだけではもの足りない!ボランティアを通して自分のスキルアップをしたい!新しい何かを始めたい!そんなそこのあなた、是非私たちとVolunchメンバーとして活動していきましょう!!

2017年2月14日(火)ワークショッププロジェクトの第2回ワークショップとして、防災勉強会「被災地支援ボランティアってどんなもの??～学校周辺地域の災害リスクから学んでみる～」を開催しました。学生スタッフ一同とても勉強になったイベントとなりましたので、今回は特別コラムとして寄稿いたします。

3月広報誌 特別コラム

被災地ボランティア・防災勉強会から学んだこと

1年 藤原 奏

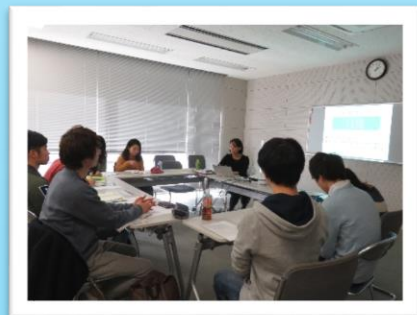
2月14日(火)に、ボランティア支援室学生スタッフを中心とした約10名が集まり、防災勉強会を開催しました。地図を通して災害時の危険性を考えるワークショップや、防災に関する講座など、災害に関する活動を行う「減災アトリエ」主宰の鈴木さんを講師にお迎えしました。

まず、昨年の熊本地震で起きたことを学びました。地震後の町の被害の様子は‘モザイク状’だったそうです。建物の耐震性などにより、倒壊した建物とそうでない建物が混在し、被害がばらばらだったそうです。東日本大震災のような、町の建物を一挙にのみこんでしまう津波とは異なる被害状況でした。避難所では、たくさんの方が一堂に集まって、いろいろな生活行動をするため、ニオイが凄く大変だったそうです。

避難所では当然ストレスがたまります。支給されるお弁当ひとつとっても、大抵が、若者から老人までみんな同じもの、同じ量です。またプライバシーも十分に確保できる状況ではありません。このような避難生活の中、先導を切って避難所を運営していたのは、主に学校の先生だったそうです。例として挙げられた避難所では、先生がそれぞれ役割(水道係、食事係、衛生係など複数に分けて役割を明確化していました)を一人一つ担当し、避難所を円滑に動かすような工夫をしていました。ただし、避難所運営を円滑にすることが学校の役割ではなく、児童の安否や、教育の早期再開、心のケアなど、本来の役割もあると学びました。

次に、このように熊本地震のお話を受け災害について改めて考えたあと、“もし私たちの生活する地域で災害が起きたらどうになってしまうか”を、市大八景キャンパスを中心とした周辺の地図を使って考えました。

地図は、4種類あり、1枚目は、広域避難場所・地域防災拠点の地図です。八景キャンパスは、広域避難場所に指定されていました。キャンパス周辺には、避難拠点到指定されている公園がいくつかありました。2枚目は、想定震度の地図です。京急線を隔てた右と左で、海に近い方がより震度が高いようでした。3枚目は、津波浸水想定範囲の地図です。浸水の想定範囲を線で囲むと、キャンパスの京急線を隔てた反対側、海や宮川周辺の地域が、広い範囲で浸水してしまうことが分かりました。4枚目は、土砂危険箇所の地図です。土砂危険箇所を線で囲むと、キャンパスのすぐ近くに隣接している山があり、その周辺地域が、広い範囲で、土砂の危険があることが分かりました。特にシーガルホールの裏や部室棟付近にかけては、急傾斜地崩壊危険区域に指定されていました。実際に、シーガルホールの裏の第2グラウンド方面を見てみると、土砂の急斜面があり、身近な危険を感じました。危険が身近に確認されると、建物や山は動かせないし、どうしたらいいのかと改めて真剣に考えます。災害発生時はこう動こうと、自分の日々の意識を変えていくしかないと感じました。



これら4種類の地図を通して、八景キャンパス周辺の地域は、付近に海も山もあることから、浸水や土砂崩れの危険性が、広範囲に渡っていることが分かりました。このような環境下で、私たちは、災害に対する意識を普段から持つべきなのだと感じました。

また、新潟県中越地震発生時の小学校の様子動画をを見せていただきました。たまたま大勢の人が校庭にいる状況でした。小学生は、普段から避難訓練をしていたお陰か、すぐさま校舎から離れ校庭の中央へ走ったのに対し、校舎付近にいた沢山の大人は、がたがたと窓が揺れて明らかに危険な校舎を見つても、その場から動けずにいました。この動画からも、普段から防災の意識をもっていることが大切なのだと感じました。災害が起きた時の、もしもの意識を、いつも忘れずにいようと思いました。

そして次に、被災地ボランティアについてのお話を聞きました。現地での支援方法として、ボランティアとプロボノ(専門的・技術的な技能を活用したボランティア)の2つがあり、大学生はボランティアとして参加することが多いことを教わりました。また、ボランティアに参加する際、大切なことを大きく分けて、3つほど学びました。

ひとつ目は、参加しているボランティアを通して、勉強させてもらっているという気持ちを持つことだそうです。現地では、メディアを通して見る被災地とは異なる、困難な状況が多く存在し、また被災地での人々との触れ合いには、新しく学ぶことがたくさんあるとおっしゃっていました。その中で、災害によっておこる、生活への大きな影響を認識し、それに対して、皆が協力して、未然に防ぐ努力をしたり、災害後の対処方法を予め考えておくことにつながるとおっしゃっていました。

2つ目は、少しでも誰かの役に立とうという気持ちを持つことだそうです。被災地のボランティア活動に参加する人の中には、「やってあげている」というような被災者との間に立場の上下を感じさせる考え方を持っている人もいます。しかしながら、参加した側にも大いに学ぶことがあり、相手を思う気持ちが大事だと話されていました。

3つ目は、ニーズがあってこそそのボランティアであるということだそうです。ボランティアにおいて、支援する側が一方向的に活動を行うことは、ただの押し付けになってしまい、本当に必要な支援にはならないとのことです。そして、ニーズを明らかにするためには、しっかり考え、被災地の人々の気持ちや思いを汲み取るための対話が重要だと学びました。また、対話をする際には、どんな状況なのか、必要なものは何なのかを考えられる「想像力」と、「自分自身が日々を大事に生きているかどうか」ということがとても大切だとおっしゃっていました。

最後に、一つの漢詩を例に、変哲もなく過ごしている日常生活の中でも、常に災害を意識し、もしものことに備える重要性を教わりました。

「居安思危 思則有備 有備無患(安きに居りて危うきを思う 思えばすなわち備えあり 備えあれば患い無し)」

今回の防災勉強会を通して、被災地でのボランティアに参加するということは、まず自分自身を大切に、その上で、活動に参加したり、被災地の人々と対話することが重要なのだと強く感じました。



↑作成したMy減災マップ



ボランティア体験記

2016年度のボランティア・ボランティア関連イベントに参加した方々から体験記をいただきました。皆さんの生の声をお届けします!!

【ボランティア体験記】

「ボランティア名」

①活動日時 ②活動内容 ③ボランティアの感想 ④これからボランティアする人に対するメッセージなど

「浜大祭 工作教室&防災スタンプラリー」

国際総合科学部 1年 阿部咲桜里

①2016年10月29日

②私が参加したボランティアは、浜大祭で行われた子供対象の防災教育のイベントのアシスタントでした。イベントでは3つのコーナーが用意されており、間違い探しゲームでは防災対策が行われている部屋の絵とそうでない部屋の絵を見比べて、何がどう違い、なぜそれだと良くないのかということをしつくりと考え、パズルゲームのコーナーでは様々な避難場所図記号を完成させ、これはどのようなことを意味しているのかということについて考えました。この2つのコーナーで考えたことをもとに、最後のコーナーでは様々な防災グッズのイラストカードから、子供たちが災害時に必要だと感じるものを選んでもらい、プレゼンテーションをしてもらいました。

③参加型のイベントであったため、私自身も子供たちと一緒に防災について改めて考えることができました。ゲームを通して子供たちは楽しみながら防災について考えることができたのではないかと思います。東日本大震災や熊本地震など甚大な被害がもたらされる災害が多発している近年、一人一人が自分の命を守ることの大切さを強く実感しています。イベントに参加するまで「防災」という言葉を知らなかった小さな子供たちが、想像力をめぐらせて一生懸命に考えている姿を見て、ここで学んだことを思い出して実践できるような経験になれば良いなという思いで子供たちに寄り添って一緒に考えました。防災教育は参加した子供たち、保護者の方々、ボランティアの私たちも一緒になって考えることができ、また私たちの生活の中で重要な役割を果たすと思います。今後もぜひ続けて欲しいです。また参加したいです！

④私が参加したこのボランティアは短期でしたが、長期のボランティアにも継続的に参加しています。ボランティアでは大学の講義だけでは知ることのできないことを、体験しながら学ぶことができると思います。ボランティアに参加することで新たなコミュニティを築くことができ、経験を積むことで興味のある分野をより一層深めることができます。ボランティア支援室の皆さんは本当に親切で、いつでもわかりやすく教えてくれますし、何かあったときはすぐに相談できる頼もしい存在です！誰でもいつでも、安心して始めることができるので、ぜひ参加してみてください。大学生活の貴重な経験になると思います！

「カラバオの会」

国際総合科学部 1年 北垣璃乃

①2016年12月~現在

②広報部では月の初めに、来日して来た外国籍の方々をサポートしているカラバオの会の事務所に集まり次に発行する広報誌について話し合いを行います。広報誌の話し合い以外にも地域のイベントやセミナーなどに参加します。

③最初知識があまりなく、自分が何をできるかよくわからない状態でしたが、多くの人のサポートのお陰で様々なことを少しずつ学んでいます。また、「第5回 中区多文化フェスタ~あなたと世界がつながる日~」というイベントにカラバオの会の一員として参加し、他団体などとの交流を深めることができました。こういった活動を通して異なったバックグラウンドを持った人達と出会い、また新たな横浜の一面を見る機会が増えたと思います。

④何かやってみたいなど何かのボランティアに興味を持ったら、インターネット検索だけでなくボランティア支援室で多くのボランティア活動の募集の情報があるのでぜひ一度訪れてみてください。

「横浜金沢ビーチサイドマラソン」

国際総合科学部 1年 鈴木百音

①2017年2月5日

②スポーツに関心があり、かつ、イベントがどのように成り立っていくのかを知りたいと思っていました。そこで、「第1回横浜金沢ビーチサイドマラソン」でボランティアをさせていただきました。私が行った活動は、走路の進行方向が書かれた案内板を走路沿いに設置すること、ランナーの方々の荷物を保管すること、声を出してランナーの方々に応援しながら、飲料水を配給することでした。

③どのような声掛けをするのがベストなのか、どうすればランナーの方々にスムーズに飲料水を受け取っていただけるのかなどと、私は相手の立場に立っていると想定して活動したため、良い雰囲気をつくることに少しばかりは貢献できたと思います。
「あともう1周走ってきます。ありがとう。」と言って給水所を去っていった方や、ゴール目前にも関わらずこちらに向かって手を振り、笑顔を浮かべながら走って行った方が最も印象に残っています。私の中でボランティアとは、「支援する」というイメージが強かったのですが、学ぶことが多く、ランナーの方々に明るく接していただいたこともあり、私自身が周りの方々に支えられたと思います。私はまだまだボランティア経験は浅いですが、これからその経験を積み、人として成長していきたいと考えています。

「第5回 学生ボランティアフォーラム」 国際総合科学部 2年 和田朋也

①2017年3月3日~5日

②このイベントは全国の学生ボランティアやこれらの学生を支援する大学、関係機関等が一堂に会し、交流プログラムやシンポジウムを通して交流と学びを深めるものでした。様々なテーマに沿って、意見交換会が開かれ、自分の興味のあるものに参加でき、私は「ボランティアコーディネーション」をテーマにした意見交換会に参加しました。またボランティアに多く参加して様々なことに挑戦している学生さんのパネルディスカッションなどのプログラムもあり、いろんな人のボランティアへの想いを知ることができました。

③私がこのイベントで印象に残っているのは、2日目に行われた意見交換会でした。私が参加した意見交換のテーマは「ボランティアコーディネーション」。この意見交換会には様々な大学のボランティアセンターの学生スタッフが参加していました。私は横浜市大のボランティア支援室の学生スタッフとして、とても充実した会に参加できたと思います。学生ボランティアにおける様々な課題をどうしたら解決できるか、どうしたらより多くの学生がボランティアに興味をもてるようになれるかなど、様々な事例を考えながら、意見を共有し、考えを深めることが出来ました。

④ボランティア活動に参加することで、新しい世界を見ることが出来たり、様々な人との出会いを得ることが出来ます。また、ただボランティアに参加するだけでなく、このようなイベントに参加すると、様々な人の考えを知ることができ、とてもよい刺激を得ることが出来ます。是非ボランティアやボランティア関連イベントに参加して、新たな人との出会いや世界を自分のものにしてください。



「第5回 学生ボランティアフォーラム」 国際総合科学部 2年 岡宙哉

①2017年3日~5日

②国内、国外関係なくボランティア活動に参加している学生、ボランティアに興味ある学生が交流を目的として催されたイベントでした。1日目には交流プログラムがあり、様々な学生とアイスブレイクやゲームを通して、お話することができました。2日目の意見交換会では、私は「オリンピック、パラリンピック」がテーマのものに参加しました。意見交換会後の全国学生交流見本市では、各地の大学のボランティアセンターがブースを出展し、取り組みを各学生スタッフから教えてもらいとても勉強になりました。またそれ以外に、学生のボランティアを募集している、NPOや企業などのブース出展もあり、様々なボランティア先を知れるとてもいい機会になりました。

③私が参加した意見交換会「オリンピック、パラリンピック」では、まず初めに、長野オリンピックの時に長野の北部(開催地)はとても盛り上がったけれども、南部には目立った盛り上がりはなく、長野全体での満足度は低かったという事例が挙げられました。2020年の東京オリンピックでは、東京だけじゃない、地方も含めて日本中が盛り上がるために、私たちが出来ることをワークショップ形式で意見交換をしました。まず自分の地域の特徴と自分の得意なことをマッチングさせて何かできないか考え、学生一人一人の出来ることは小さいけれども、力を合わせればいろいろなことが出来るということを実感しました。例えば、地域のお祭りを活かした、オリンピック観戦イベント兼縁日や温泉街でのオリンピックキャンペーンとして称した温リンピックといったユニークなアイデアが出されました。2020年までまだ時間はあるけれども、私たち学生の方で、今からでもオリンピックを、東京を、自分の地域を、日本全国を盛り上げることが出来るんだと実感することができました。僕も2020年までにオリンピックを盛り上げるために、何かボランティアに参加したいと思いました。

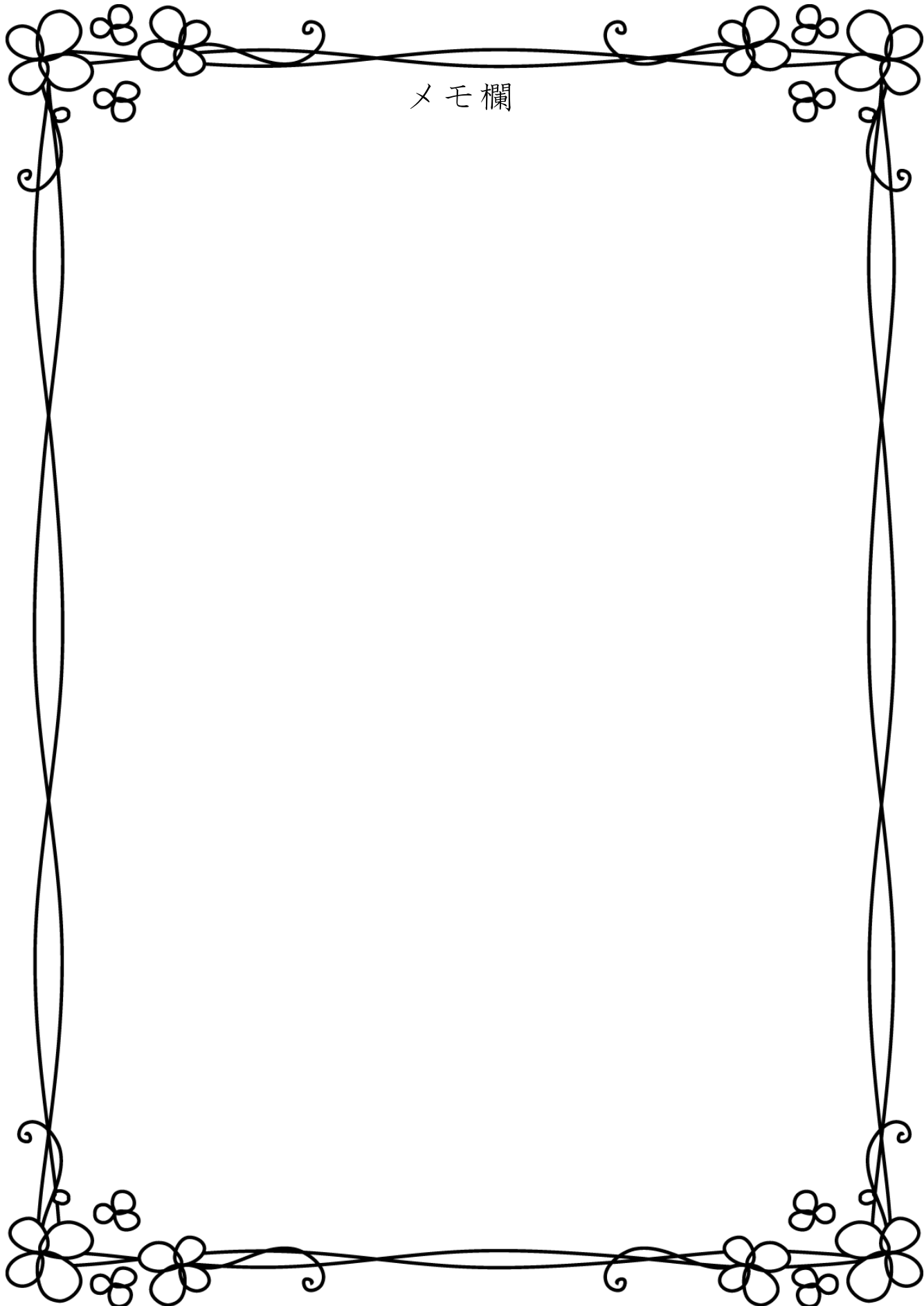
④私は横浜市立大学 ボランティア支援室 学生スタッフをやっています。学生スタッフの活動やボランティア活動をすることによって、普段なじみのない分野や業界を知ることが出来ます。ボランティアには堅いイメージがあったり、垣根が高いかもしれませんが、いざやってみると新しい発見ばかりで、楽しさがあります。あなたも是非新しい発見を求めてボランティアに挑戦してみてください。



フォトギャラリーコーナー



メモ欄



Volunch



ycu ボランティア支援室



開室時間: 平日10:00~17:00 (不在時あり)



045-787-2444



voluntee@yokohama-cu.ac.jp



@YCUvolunteer
@YCUvolunteer_ss (学生スタッフ)



@YCU.volunteer
@YCUvolunteer.ss (学生スタッフ)